

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：82723

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01315

研究課題名（和文）コスモポリタニズムのアクチュアリティ

研究課題名（英文）Actualities of Cosmopolitanism

研究代表者

有賀 誠（Ariga, Makoto）

防衛大学校（総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群）・人文社会科学群・教授

研究者番号：90531765

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本共同研究では、現代における「コスモポリタニズム」の意義を再考した。しかし、真の再考のためには、その哲学的な背景となる「普遍主義」にまで遡ることが必要となる。こうして、われわれは、文化や言語、人種や性の多様性・特殊性が尊重されるべきグローバル世界のなかで、「普遍主義」はどのように可能なのか、を問うこととなった。われわれは、最終的に、西洋中心主義的・植民地主義的な価値の押しつけでなく、排他的なナショナリズムによる反西洋・反合理主義でもなく、新自由主義に回収されてしまうポストモダンでもない、真に平等なコスモポリタニズムの可能性を見出したと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多様性や特殊性をただ単純に称揚したのでは、結局のところ、新自由主義に回収されてしまう「正しさは人それぞれ」という立場に至るだけだろう。とはいえ、ポストモダン思想の成果を完全に無にしてしまうのでない限り、「真実は一つ」というあからさまに西洋中心主義的な普遍主義に立ち返ることも難しい。この厄介な袋小路をすり抜けるような新たな「コスモポリタニズム」へ至る様々な方向性を模索したところに、本共同研究の学術的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this joint research project, we have reconsidered the meaning of "cosmopolitanism" in the modern era. However, a true reconsideration requires going back to its philosophical background, "universalism." Thus, we came to ask how "universalism" is possible in a global world where diversity in culture, language, race, and sexuality should be respected. We believe that we have ultimately found the possibility of a truly egalitarian cosmopolitanism. This is a new cosmopolitanism that is not the imposition of Western-centric values, nor, conversely, anti-Westernism through exclusive nationalism.

研究分野：政治理論

キーワード：コスモポリタニズム 普遍主義 特殊主義 グローバリゼーション 人新世 リベラリズム コミュニタリアニズム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、「グローバルイシューの規範理論」(16K03532)の後継企画として、現代における規範理論研究の新たな地平を切り拓くことを目指すものであった。

コロナ禍が示したように、現代世界は、グローバルに結びつき、局所的なインパクトが容易に世界大に拡大する世界となっている。そうした中で、国境の持つ意味はかつてに比べて大幅に低下している。では、このように国民国家がデファクトに相対化されている現代にあって、望ましい政治規範はどのようなものなのだろうか。これが、本研究に参加する各研究者の共通の問題意識である。

こうした問題意識は、古代ギリシア以来の「コスモポリタニズム」にすでに見られるものでもある。そこでは、グローバル化を肯定した上で、個としてのアイデンティティを普遍的なヒューマニティの中に求める道が模索されていた。本研究は、コスモポリタニズムが切り開いたこの道を継承しつつ、その現代的なアップデートを試みようとして開始された。

## 2. 研究の目的

現代世界は、不可避的にグローバル化が進む世界である。そうした流れの中で、国民国家という枠組みでは解くことのできない環境問題等の課題が数多く出現している。このとき注目されるのは、「コスモポリタニズム」という歴史ある思想である。本研究は、「コスモポリタニズム」を、現代的な課題に応答可能なものとしてアップデートすることを目指した。

## 3. 研究の方法

上記「研究の目的」に記した問題意識を共有した上で、本研究に参加する各研究者が、細分化されたパートごとに研究を遂行することを基本的なスタイルとした。

しかし、独立して研究を進めるだけでは、全体のプロジェクトとの乖離が生じる恐れがあるため、すでに20年近く定例の研究会を実施してきた「現代規範理論研究会」という枠組みを利用して、各自の研究の進捗状況を、逐次、報告する機会を設けた。また、そこでの長時間にわたるディスカッションを通じて、他のパートを担当している研究分担者から様々な示唆を得て、必要な軌道修正を行った。また、研究分担者以外にも、先端的な研究を行っている若手研究者を招聘し、「現代規範理論研究会」の場で、報告をしてもらうことも実施した。

なお、「現代規範理論研究会」は、コロナ禍の中にあっても、リモートの形で研究会活動を継続しているので、各研究者が孤立することなく、共同研究の利点を享受することができた。

各パートごとの課題と担当者を、以下に列挙しておく。第一のパートは、「グローバル正義論の現状と可能性」を扱う。グローバル正義論の理論的展開をフォローすることが中心である。このパートを担当するのは、伊藤恭彦、上原賢司であった。

第二のパートは、「戦争と平和」を扱う。グローバル化の中で、戦争の形態がどのように変化し、それを規範的にどう評価すべきかを考えることが中心である。このパートを担当するのは、松元雅和と有賀誠であった。

第三のパートは、「資本主義と社会主義」を扱う。資本主義が推進したとも言えるグローバル化の行き着く先に、逆説的にも社会主義思想の復権の兆しも見えている。そうした思想的動向をどう評価するかを考えることが中心である。このパートを担当するのは、松井暁と田上孝一であった。

第四のパートは、「グローバリゼーション時代の環境正義」を扱う。環境問題はグローバルに対処すべき待ったなしの問題であり、環境正義についての理論的進展をフォローすることが中心である。このパートを担当するのは、田上孝一であった。

第五のパートは、「ナショナリズムの現代的展開」を扱う。国民国家が相対化される中にあって、かえってナショナリズムのバックラッシュ現象も見られる。グローバル化の中で、ナショナリズムはどのように評価されるべきかを考察することが中心である。このパートを担当するのは、施光恒である。

最終的に、それぞれのパートを統合し、コスモポリタニズムの現代的意義についての論集をまとめることを目標とした。

## 4. 研究成果

本共同研究では、現代における「コスモポリタニズム」の意義を再考した。しかし、真の再考のためには、その哲学的な背景となる「普遍主義」にまで遡ることが必要となる。かくて、われわれは、文化や言語、人種や性の多様性・特殊性が尊重されるべきグローバル世界のなかで、「普遍主義」はどのように可能なのか、を問うこととなった。われわれは、共同研究を進めることで、最終的に、西洋中心主義的・植民地主義的な価値の押しつけでなく、排他的なナショナリズムによる反西洋・反合理主義でもなく、新自由主義に回収されてしまうポストモダンでもない、真に平等なコスモポリタニズムの可能性を見出しえたと思う。

具体的な研究成果として、研究代表者、研究分担者が年度ごとに、各種学術雑誌に研究成果を

論文として発表し続けただけでなく、最終年度には、共同研究の総まとめとして『普遍主義の可能性／不可能性』（法政大学出版局）という論文集を刊行した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 964
2. 論文標題 ウクライナ戦争と平和主義のゆくえ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 201-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 166
2. 論文標題 『反攻の象徴』としてのドローンと戦争倫理	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『自由思想』	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井暁	4. 巻 75
2. 論文標題 コックショットとコットレルのサイバネティック計画経済論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『専修経済学論集』	6. 最初と最後の頁 95-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 24
2. 論文標題 現代日本における動物倫理学の展望 『はじめの動物倫理学』への反響から考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 豊田工業大学ディスカッションペーパー	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 78
2. 論文標題 マルクスの哲学から見えてくるもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 1
2. 論文標題 何が「存在」を「道徳的存在」たらしめるか 動物倫理からみる肉食	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 HUG	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有賀誠	4. 巻 22
2. 論文標題 ポスト基礎付け主義的デモクラシーという希望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 348-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井暁	4. 巻 56
2. 論文標題 労働所有論と生産手段所有論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専修経済学論集	6. 最初と最後の頁 85-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 155
2. 論文標題 動物倫理学からする食の倫理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 唯物論研究	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 156
2. 論文標題 マルクスの理論的核心としての疎外論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 8唯物論研究	6. 最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 24
2. 論文標題 吉田書評への簡単なリプライ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 豊田工業大学ディスカッションペーパー	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 施光恒	4. 巻 527
2. 論文標題 グローバル化の是正で中間層の再生を	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井暁	4. 巻 58
2. 論文標題 アルバートとハーネルの参加型計画経済論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 専修経済学論集	6. 最初と最後の頁 125-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masakazu Matsumoto	4. 巻 4
2. 論文標題 Public perceptions of autonomous lethal weapons system	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 AI and Ethics	6. 最初と最後の頁 451-462
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41311-023-00540-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 60
2. 論文標題 平和研究としての政治哲学—「理想」を再定義する	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 田上孝一
2. 発表標題 現代日本における動物倫理学の展望 『はじめての動物倫理学』への反響から考える
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上原賢司
2. 発表標題 正義の問題としての天然資源
3. 学会等名 政治経済学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田上孝一
2. 発表標題 疎外論からディアマートへ マルクス哲学の変質と再生
3. 学会等名 社会主義理論学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mastui Satoshi
2. 発表標題 Property and Two Factors of Production
3. 学会等名 International Initiative for Promoting Political Economy
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 ここにある社会主義
3. 学会等名 社会主義理論学会
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 ここにある社会主義
3. 学会等名 関西唯物論研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上原賢司
2. 発表標題 関係性の中での天然資源の分配的正義
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Satoshi Matsui	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 240
3. 書名 Socialism as the Development of Liberalism	

1. 著者名 松元雅和(共著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 国際関係論のアボリア	

1. 著者名 田上孝一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 320
3. 書名 99%のためのマルクス入門	

1. 著者名 有賀誠(共著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 ユートピアのアクチュアリティ	

1. 著者名 有賀誠、田上孝一、松元雅和、伊藤恭彦、上原賢司、施光恒、中村隆志、松山聡史、菊池理夫、轟孝夫、大場優志、見崎史拓	4. 発行年 2024年
2. 出版社 法政大学出版会	5. 総ページ数 370
3. 書名 普遍主義の可能性 / 不可能性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松元 雅和  (Matsumoto Masakazu)  (00528929)	日本大学・法学部・教授   (32665)	
研究分担者	伊藤 恭彦  (Ito Yasuhiko)  (30223192)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授   (23903)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上原 賢司  (Uehara Kenzi)  (40826179)	藤女子大学・文学部・准教授    (30105)	
研究分担者	施 光恒  (Se Teruhisa)  (70372753)	九州大学・比較社会文化研究院・教授    (17102)	
研究分担者	田上 孝一  (Tagami Kouichi)  (70646603)	立正大学・人文科学研究所・研究員    (32687)	
研究分担者	松井 暁  (Mastui Satishi)  (90238931)	専修大学・経済学部・教授    (32634)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関